

科目名	観光研究ゼミナール	科目コード	1234	単位数	2
担当者名	竹野 学	開講セメスター	第5セメスター	開講年次	3年次
授業の方法	演習	実務経験	無		

● 授業のねらい

ゼミでは文献の輪読を通じて、下の到達目標に掲げたような、文系の大学生として最低限身につけておくべき技術の習得をめざします。

今期は、日本や北海道の観光資源の大きな柱の一つである「食」、その中でも農産資源について学習するために、日本農業についての基礎的文献である第1テキストおよびゼミ受講生との相談で選択する第2テキストの輪読を行います。そのことで、日本農業が今後の日本や北海道の観光や経済においてどのような可能性を持つものなのかを各自で考えることが狙いです。

そしてその調査学習の結果をプレゼンテーションという形で発表してもらいます。

● 到達目標

1. 著者の伝えたいことを正確に読取ることができる。
2. 読んだ文章を的確に要約して文章化することができる。
3. 自分の考えを口頭や文章で他人に伝えることができる。
4. 問題を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理しその問題を確実に解決できる。
5. 多文化・異文化に関する知識の理解を養う。

● 授業内容

- 1週目 打ち合わせ ゼミの進め方の説明、報告順の決定と文献の調べ方の解説
- 2週目 学習のための基本的技術の確認（読書法、資料調査法、レジュメ作成法など）
- 3週目 『日本を救う未来の農業』輪読1回目
- 4週目 『日本を救う未来の農業』輪読2回目
- 5週目 『日本を救う未来の農業』輪読3回目
- 6週目 『日本を救う未来の農業』輪読4回目
- 7週目 『日本を救う未来の農業』輪読5回目
- 8週目 関連映像視聴+ディベート1回目
- 9週目 第2テキスト（参考文献にあげた3冊の中から開講後に相談して決定します）輪読1回目
- 10週目 第2テキスト輪読2回目
- 11週目 第2テキスト輪読3回目
- 12週目 第2テキスト輪読4回目
- 13週目 第2テキスト輪読5回目
- 14週目 関連映像視聴+ディベート2回目
- 15週目 各自の調査学習に基づくプレゼンテーション+ディベート
- 16週目 全体のまとめ+フィードバック（但し、やむを得ず、15週目までの授業内容を実施出来なかった場合は、補講授業を行う）。

● 準備学習(予習・復習)等の内容

1週目は輪読の担当箇所を決めますので、必ず第1テキストを持参してください。

報告者は報告に向けてテキストを精読し内容を簡潔にまとめ、関連文献の調査などの準備を行ってください。また、参加メンバーはテキストを読んで、質問事項や議論すべき内容を各自で考えてきてください。

それらの中で受講生各自が関心を持ったテーマについての調査学習の成果をゼミの後半期間に発表してもらいます。

● 成績評価の方法・基準

報告の内容（50%）、討論への参加（50%）などで総合的に評価します。なお、無断欠席をする学生には単位取得を認めません。

● 履修上の留意点

毎回の報告者を決めて、報告者にレジュメの作成と報告をしてもらい、それをもとにして全員で議論をします。そのため、全員が毎回必ずテキストを読むことがゼミに参加するための前提となりますし、遅刻や無断欠席は厳禁です。

また期末の課題などは課しません。毎回のゼミの参加状況で評価がなされます。

● 課題に対するフィードバックの方法

提出課題やゼミ中に提示された疑問・質問などでゼミ時間内に対応できなかった事柄については、ゼミ中もしくはCoursePowerを利用して全員ないし個人にフィードバックを行います。

● テキスト

- ・竹下正哲『日本を救う未来の農業 イスラエルに学ぶICT農法 ちくま新書』ちくま新書、2019年、924円

● 参考書

- ・佐藤洋一郎『米の日本史 稲作伝来、軍事物資から和食文化まで』中公新書、2020年、1,078円
- ・竹下大学『日本の品種はすごい うまい植物をめぐる物語』中公新書、2019年、990円
- ・稲垣栄洋『イネという不思議な植物』ちくまプリマー新書、2019年、902円
（上記3冊の中からゼミ後半で読む第2テキストを相談の上で選びます）
- ・農林水産省「平成30年度 食料・農業・農村白書」
https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h30/
- ・ほか各回のゼミ内容に関連する論文・記事などその都度指示、ないしコピーを配布します。

● 更新日付

2020/03/04 09:37